

【奈良】8月3日開催：杭基礎の設計・施工の要点と「基礎ぐい工事監理ガイドライン」の解説講習会Q&A

講義科目	配布資料掲載頁	質問内容	回答
3.既成コンクリート杭施工管理指針（日建連版）の解説	P40 施工記録の保存期間について	DVDの中で、建物が存在する期間保管する必要があると言われていましたが、全建協では10年と決められています。施主サイドで建物存在する期間の保管と考えて良いでしょうか？	日建連では施工記録の保管は建物が存続するまでとしています。お客様が建物を存続し続けるまで保管するとしております。
	P54,59 本杭着手前に未固結液を採取し、強度確認を行う。	左記のようにありますが、高・中支持力の杭には必要だから、それ以外の工法の時は行わない。と現場からの回答ですが宜しいか？（COPITA型プレボーリング工法）	α 250以上は未固結液採取が望ましい。
	P61 セメントミルク注入量確認講習内で写真を撮ってエビデンスを残す	注入量の確認は統合型管理措置を設置しない工法の場合、モニターの写真が撮れないとのこと。かわりに施工に先立ち、セメント水の伽リブレーションを行うことで代用可能でしょうか？	セメントミルク作製量のバッチ数で管理することが重要である。
	P60 「積分電流計」と「アナログ電流計波形」の確認が必要。 一電源の入れ忘れ防止策として	積算電流計の使用は高支持力の杭工法の場合となり、工法によっては設置せず、電流計測定装置のみとなっても良いか。ただし、電流計測定装置を2台設置するで対応可能か？	統合型管理装置が望ましい。